

論文審査の結果の要旨

平成30年2月16日

学位論文題目 抗MRSA抗菌薬による有害事象とリネゾリドによる細胞
毒性機構に関する研究

学位申請者 藤 居 賢

審査委員 主 査 桜 井 光 一

副 査 佐 藤 久 美

副 査 佐 藤 秀 紀



抗菌薬は感染症治療において中心的役割を果たしている。抗菌薬を適正に使用するためには感染症治療における的確な抗菌薬の選択、有害事象の発現および重症化の防止、耐性菌発現の抑制などに尽力し、薬剤師が抗菌薬の適正使用の中心とならなければならない。本研究では、脳神経外科を主診療とする病院における注射用抗菌薬の使用量と院内分離菌薬剤感受性についての調査した結果、医療施設間で感受性サーベイランスや抗菌薬使用状況と分離菌情報等を共有することは、地域における耐性菌拡大の抑制に有効であることを示した。また、抗MRSA抗菌薬のリネゾリドとバンコマイシンの代表的な有害事象である腎機能障害と血小板減少について検討した結果、リネゾリドとバンコマイシンの安全性の確保に有効な指標を示した。さらに、リネゾリドの代表的な有害事象である血小板減少の発症機序を解明するため、ヒト単球系細胞株 U937 を用いてミトコンドリア障害とアポトーシスの誘導について検討した結果、リネゾリドがアポトーシス性細胞死を誘導すること、さらにリネゾリドによるミトコンドリア機能障害が細胞死の誘導に関与することを明らかにした。本研究により、病院薬剤師が従来の薬剤業務に加え、抗菌薬の有効性と安全性の情報を活用すること、抗菌薬の作用機序等について基礎研究を通して検討することは、抗菌薬を適正に使用するための重要な情報をもたらすものである。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。